



緊急事態宣言が解除され、コロナウイルスの感染に注意しながらの登校が始まりました。マイペースの生活から、集団の中での社会性を求められる日々にスイッチが切り替わりました。

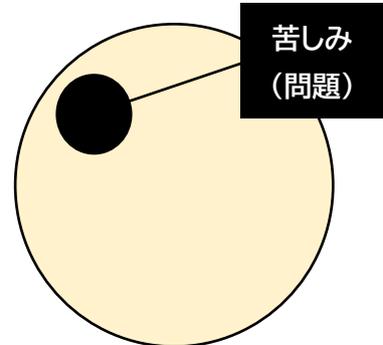
生徒が抱えている問題をどう捉えるか

今一度、不登校等の「問題を抱える生徒について」見つめ直してみましょう。

「悪いところをなおそう」としていませんか

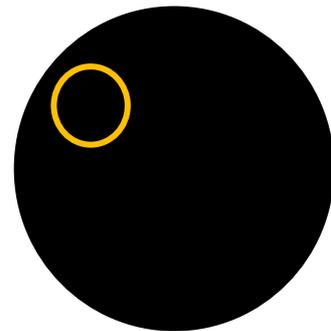
「問題」＝「悪いところ」と考え、それを矯正もしくは、なおそうと考えていませんか。

問題を抱えていることは「悪いこと」「悪いことをなおして、正しく行動できるように、生活できるようにしよう」と思っていませんか。では、いつも前向きで、誰にでもやさしく、友好的で、自分の主張を上手に伝え、仕事のミスもなく完璧で、家庭でも良い親として生活全般も手を抜かず、生活できている人ってどれだけいるでしょうか。誰しも、理想通りやろうと思ってもできないことがあります。気持ちがへこんでいるとき、悩むときもありますよね。ましてや生徒はまだこれから人生について学んで行こうという時です。未完成、発達の途上です。もし、あなたが、顔を合わせるたびにいつも、できないことや悩んでいることばかり話題にされて、努力を求められたらどうでしょう。「私だって、いいところあるのに・・・。」と言いたくなりますよね。生徒もいっしょではないでしょうか。



問題だけがその生徒の全てではない
抱えている問題は生徒の一部であって、健康的なよい面もあります。

不登校のAさんは「Aさん＝不登校の生徒」でしょうか。また、Bさんは、授業中落ち着かなくてすぐに集中

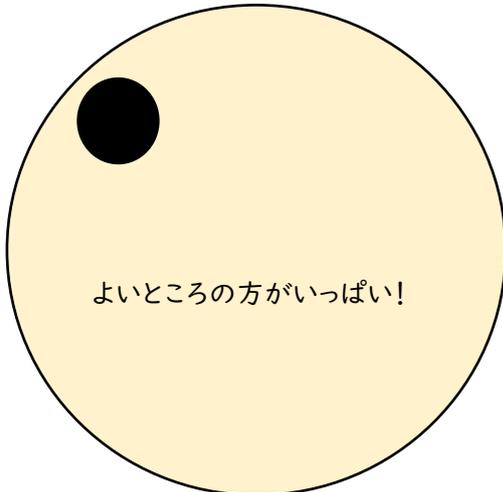


が切れて寝てしまう。「Bさんは寝ている子」でしょう [× 全人的に問題者と見てしまう]
か。それだけのはずがありません。それぞれの生徒に健康的なよい面があるはずで、不登校で学校に来ないけれど読書家だったり、授業中寝ているけれど部活では大活躍だったりするかもしれません。いつも部屋の隅でくすぶっているだけではないし、一日中寝ているわけではありません。勉強もするし、ご飯も食べる。テレビを見ながらスマホゲームを楽しんでいたたりするかもしれません。



よいところを広げていく

「生徒のよいところを伸ばそう」「生徒の生活がもっと豊かになるといいな」という発想で取り組む



よいところの方がいっぱい!

自分にとって「当たり前」で「普通」で「一般的」で「常識」だと思えることが他人にはそうでないことも多くあります。それは正しいとか間違っている

とかという問題でもありません。「普通」や「常識」等のラインは誰かが決めるものでも、決まったものでもないの、こういった言葉を安易に使うことは禁物です。ただ、「社会通念(社会のルール)」は教えていかななくてはいけないのでこの加減は難しいところです。互いの価値観を尊重しながら、気持ちよく、幸せに暮らせる接点をいっしょに考えて行くという姿勢が大切なのではないのでしょうか。

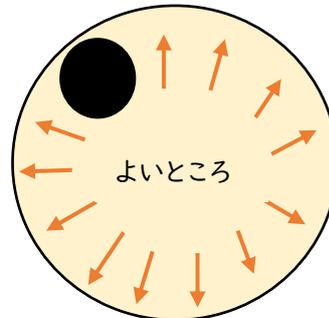
ひとりでやろうとしないで大丈夫

早い段階で学年や学校全体で取り組み、
専門家への相談も積極的に

どと情報を共有しましょう。そして、チームで取り組みます。心理の専門家、スクールカウンセラーとの面談も必要かもしれません。また、発達障害が背景にあると考えられる件も多くあります。そうでない場合でも専門アドバイザーにご相談ください。いっしょに問題解決の方法を考えましょう。

参考:2018年7月21日 須田誠先生講演「ひきこもりの理解と対応」

生徒の健康的なよい面を大切にしましょう。できるだけ生徒全体を捉え(様々な情報を収集し)よいところを見つけてどんどん押し広げ、認めら



れ、褒められる機会を増やすことで、本人の生活を豊かなものにし、問題を大きく見えなくすることも1つの方法です。

自分の価値を押しつけない、互いを尊重し合う姿勢

「生徒の文化(ルールや好み)を尊重する、私たち大人の文化も理解し、尊重してほしい」という姿勢

生徒の抱える問題を見つけたとき、まずは見過ごさない事が大切です。そして一人で抱え込まないこと。教師一人の力には限界があります。そして、自分の役割を知り、
学年主任や同僚な



地域の高等学校に向けて発信している
「専門アドバイザー通信」2020年の6月のものです。

